F－22 満足度からみた母親の生活意識・態度の研究（第3報）

東京学芸大　田村喜代　○石垣知子

目的　日常生活の中で母親の意識下に満足・不満足であると、家庭の雰囲気をはじめ生活領域全般に影響を与えることは、通常　現実的、経験的に知見されている。本報告は実証的研究の視点に立ち、既に因子分析で得た「満足」主因子の成素である「くらしむき満足度」別に比較群を構成し、この指標に対する各種の属性及び生活感情・生活行動など諸領域の関係から、その内部構造を検討する。

方法　調査資料は前回と同様であるが、指標 item に完全記入した 850 名を分析対象に、S－満足組　M－普通組　D－不満組の三群とし、項目の分析による比率分布・平均値の有意差検定の結果から、比較群ごとに具体的な問題との相互内容を考察した。

結果　属性のうち低学歴の母親がD組に多く出現し、年令・結婚経過年数などはいずれも満足度と parallel な関係になく、見合結婚より恋愛結婚に満足度が高く、生活感情は前回の結婚の幸福度と同様に、S－D組間に多忙感・孤独感で顕著な特色が示され、D組は男性優位観を強く否定し、生活行動では、同じくD組に行動の主体性欠如が目立ち、家庭生活に対する一種の諦め観的・投置り的な反応が見受けられた。

次回は家事労働・夫婦・親子などの人間関係領域の分析結果を報告する予定である。